

市有地等活用による看護小規模多機能型居宅介護事業者の公募検討に係るサウンディング型市場調査結果概要

項目	A社（看多機実績あり）	B社（看多機実績なし）	C社（看多機実績あり）	D社（看多機実績あり）
(1) 運営を希望する施設の機能構成および考えられるメリット・デメリットについて ①看多機と居住系サービス（GHなど）と訪問看護 ②看多機と居住系サービス（GHなど） ③看多機と訪問看護 ④看多機のみ	②希望する ・認知症高齢者グループホーム（GH）を併設することにより、より一層の機能化を図ることができるため	③④希望する ・訪問看護を運営しているため、一緒に運営できると効率的である	①希望する ・併設の施設としてGHがよい	③希望する ・訪問看護を併設することで、通いも在宅も含めて看護師が関わり、家族相談も含めて在宅生活継続に寄与できる
(2) 希望する整備の方法、候補地について ①市有地（約342㎡） ②市有地（約509㎡） ③都有地（約1048㎡） ④公有地以外	③希望する ・看多機とGHを整備可能な面積 ④希望する ・自社保有地で運営することで安定かつ各種制限なき自社独自の運営を図れる ・市内全域において、整備可能な土地を調査中であるが、土地価格の高騰等により適切な土地が見つからない状況である	①希望しない ・訪問看護併設の場合は狭い ②希望する ・看多機と訪問看護を運営する場合に広さは適切。	③希望する ・希望する機能構成を考え、候補地の中で最も敷地面積が広い物件を選択	①②希望する ・既存の訪問系事業所との距離が近いこと、連携が円滑にできる ④希望する ・不動産会社等にもあたっているが適切な土地は見つからない状況である
(3) ①運営の具体案、特徴 ②地域貢献について予定・実績	・在宅生活を続ける際の多様なニーズへの対応を図り、ご利用者様一人一人に応じた適切な複合型サービス提供を可能にするサービス提供を実践 ・1階に地域交流スペースと称した、多目的スペースを設置し、より地域に根差した施設運営を実践	・訪問看護経験の長い看護師が多く、在宅生活を支える様々な状況に対する経験が豊富 ・地域の訪問看護、介護の質の向上に寄与できるように、講習会の開催等、積極的に行っていく	・自法人で看多機とGHを運営するとともに地域資源を有効活用し、地域住民とネットワークを構築している	・訪問看護を併設することで、地域の医療機関、在宅サービス利用後のフォローも円滑に実施 ・看取りまで対応することから、ターミナル期の家族支援の実績もある
(3) ③看護小規模多機能型居宅介護を運営するうえでの課題	・看護師の採用確保が最課題	・土地、建物について、地価の高い武蔵野市で確保するのは難しく、確保できたとしても、維持、継続していくのはハードルが高い	・利用者・家族・病院相談員等への事業の周知不足 ・制度上、居宅介護支援のケアマネジャーがそのまま担当できれば、看多機のサービス利用へつなぎやすい	・居宅介護支援や地域の医療機関への周知、理解の促進が重要 ・看護師採用が大きな課題
(4) 公有地利用の対価	・貸付料について建設時からではなく、開設時からの発生を検討できないか ・貸付料については、柔軟に対応が可能	・無償で貸与あるいは10年等の一定期間無償で提供していただけることを期待	・可能であればさらに低廉な地代で用地を提供していただければ、安定してこの事業を運営することが可能	・想定される地代で事業検討していく